



根堀台だより

平成29年6月1日

第 22 号

校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

37年前の記憶を辿る 第2回ソフトボール全国大会



ご来校された〇〇〇〇さん



当時の写真も頂きました

5月29日の給食が始まる頃、遙か岐阜県から本校を訪れた方がおりました。岐阜県各務原市にお住まいの〇〇〇〇(〇〇〇〇〇〇〇)さんは、かつて由利中学校ソフトボール部が全国大会に出場した際、審判を務められた方です。昭和55年、本校ソフトボール部は郡市大会優勝・全県大会優勝・東北大会優勝を飾り、東北ブロック1位で、全国大会にコマを進めました。出場した「第2回全国中学生女子ソフトボール大会」は岐阜県で開催され、8月22日に沖縄県代表の読谷中学校と対戦しました。〇〇さんはその試合で主審を務められたそうです。

試合は1対2で惜敗しましたが、由利中学校の子どもたちは技術面だけでなく、マナー面も、試合に臨む姿勢も大変すばらしく、〇〇さんは「当時の由利中学校の子どもたちから審判として沢山のことを学ばせて貰いました。」と語ってくれました。そして、どうしても「由利中学校」という自分にとって忘れられない学校を是非一度訪ねたいという思いがあり、今回の訪問となったそうです。

お話によりますと、〇〇さんは昭和6年生まれ、学生時代は長距離走に取り組んでいましたが体調を崩されたことで陸上を断念しました。そして戦後、アメリカの方からソフトボールを学んだそうです。その際、学生や生徒の技術

は格段に向上したけれど、当時日本人のソフトボールの審判の技術が余りに低く、精一杯頑張っている子どもたちの試合が審判の技量次第で大きく左右されることに疑念を抱き、審判になることを決意したそうです。その後、研鑽に努め、アジア大会の審判を務めるまでに至ったそうです。そんな経験豊かな〇〇さんにとって本校が「生涯忘れられない中学校」であることを大変嬉しく思いました。そして、96名の在校生にはそういう素晴らしい先輩方を輩出したことを誇りに思うと共に、是非自分たちもかくありたいという思いをもってもらいたいものです。

また、86歳の〇〇さんが一人で車を運転されて、遙か岐阜県から来られたことに驚きましたが、生涯スポーツに打ち込むことが「若さ」を保つ秘訣なんだろうと思いました。そして、40年近い月日が流れても、昨日のこのように思い出される「出会い」の素晴らしさに大きな感動をおぼえた一日でした。

チャレンジデー 雑巾がけ競走に挑戦！



クラスの期待を受けて激走

5月31日（水）は「チャレンジデー」でした。チャレンジデーは、日常的なスポーツの習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきっかけづくりを目的とした住民総参加型のスポーツイベントです。毎年5月の最終水曜日に開催され、人口規模がほぼ同じ自治体間で、午前0時から午後9時までの間に、15分以上継続して運動やスポーツを行った住民の数（参加率%）を競います。敗れた場合は、対戦相手の自治体の旗を庁舎のメインホールに1週間掲揚し、相手の健闘を称えます。その起源は1983年にカナダで始められたのがその起源だそうです。

昨年由利本荘市はカテゴリー5（人口7万～25万未満）で兵庫県の豊岡市と対戦しましたが、参加率82.8%対82.6%、わずか0.2%の僅差で勝ちました。今年の対戦相手は福岡県大牟田市ですが、人口では8万人を切る由利本荘市に対して大牟田市は12万人弱で、人口では4万人も負けています。

さて、本校では当日、「雑巾がけタイムレース」と「みんなでピカピカ体育館」という「愛校日」と連動させた活動を取り入れ、全校生徒・全職員がチャレンジしました。「雑巾がけタイムレース」は1階の廊下を競技場として、各学級12名の代表が体育館入り口からスタートして音楽室入り口まで行ってターンして再び体育館入り口まで戻る「リレー」を行いました。各学級の応援は1階の特別教室の中から行いましたが、手に汗をにぎる熱戦となりました。結果は3年生が58秒、2年生が1分2秒、1年生が1分3秒でした。

そして、「雑巾がけタイムレース」終了後は、全員で体育館の床をピカピカに磨き上げました。先日「体育館の床の清掃方法」についてテレビや新聞で報道がありましたが、本校は安全面と管理面の両方を鑑み、「から拭き」を行いました。

チャレンジデーの結果は由利本荘市が81%、大牟田市が71.1%で由利本荘市の勝利に終わりました。天気もよくみんながよい汗を流した1日でした。

〇〇〇〇さんに「地域コーディネーター」を

広報「ゆりほんじょう」293号に鮎川地区の〇〇〇〇さんが紹介されていました。〇〇さんにはこれまで同窓会活動などでも大変ご尽力頂いておりましたが、今年度本校では、〇〇さんに昨年まで担当しておられた〇〇〇〇さんに代わり、「地域コーディネーター」をお願いしております。

「地域コーディネーター」は「学校支援本部事業活動」のひとつで、学校の教育活動への教育支援人材や教育プログラム等の導入に当たり、実質的なコーディネートを行う地域人材で、その成果を左右する重要な存在です。特に、これまで学校が行ってきた地域との連絡調整業務を行うものです。例えば、2年生は夏季休業中に職場体験活動「なりたい自分を目指す 14歳の挑戦！」を行います。また、「地域コーディネーター」には地元の受け入れ事業所との交渉や連絡などを担当して頂きます。また、学校運営協議会にも参加して頂きアドバイスを頂くことになっています。どうぞよろしくお願い致します。